

自覚症状で咳嗽の原因疾患推定は可能か？

片山 伸幸, 中村 暁子

やわたメディカルセンター

【背景】遷延性咳嗽，慢性咳嗽の原因として，気管支喘息，咳喘息，アトピー咳嗽は重要であるが，その鑑別は必ずしも容易ではなく，一般臨床では治療的診断になることが多い。咳嗽の出方を問診すると，胸からわいてくると自覚する患者と喉の違和感から咳がでると自覚する患者がいるが，原因疾患によって咳の出方に違いがあるのか認識していなかった。

【目的】咳嗽が発生する自覚部位によって，原因疾患が診断できるか検討する。

【方法】咳嗽にて受診した初診患者に可能な範囲で呼吸機能検査，呼気NO検査，カプサイシン咳感受性試験を施行した。問診で，咳が起こる自覚部位(胸か喉か)を確認し，聴診，look up testを行った。

【結果】呼気NOは気管支喘息と咳喘息で上昇していた。アトピー咳嗽ではカプサイシン咳感受性の亢進が認められた。Look up testは気管支喘息では全例陰性だった。胸から咳がわいてくると自覚した場合，気管支喘息の診断感度は93.8%，特異度97.4%であった。

【結論】呼気NO検査と問診で，気道アレルギーによる遷延性，慢性咳嗽の原因疾患はある程度診断可能と思われる。

【キーワード】自覚症状，呼気NO